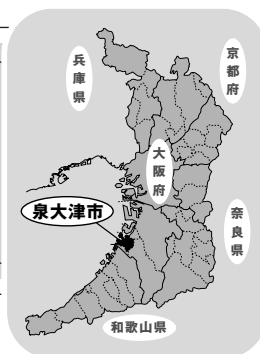


わたしのまちのPR

ピーアール

泉大津市編



泉大津市は、大阪府の中央西南部に位置し、北東・東南部は高石市と和泉市、西南部は大津川を境として泉北郡忠岡町と隣接しています。西北部は大阪湾に面し、はるかに六甲山、淡路島を望むことができます。

大津の地名は、古くから、随筆や紀行の中で、小津の泊、小津の松原、大津の浦などと記され、名勝の地として知られていました。土佐日記の中でも、とさのかみ土佐守の任期を終えて帰京する途中、当地を通ったきのつらゆき紀貫之（872?～945?）が「行けどなおいきやられぬは妹がうむ小津の浦なる岸の松原」と詠んでいます。

今回は、泉大津市の特徴などについて、総合政策部次長兼企画調整課長の稲本さんにお話をお聞きしてきました。



本日はどうぞよろしくお願ひします。

早速ですが、泉大津市といえば繊維産業というイメージがあるのですが、その概要などについて教えていただけますか。

よろしくお願ひします。

そのイメージどおり、泉大津市といえば繊維産業です。毛織王国としてその名は全国に知られています。毛布、セーター、服地、オーバー地などのあらゆる毛織物の産地です。中でも特に毛布産業が盛んです。

そこで、羊の顔をモチーフに市のシンボルマークを作成し、“毛布のまち泉大津”をアピールしています。

歴史について言いますと、明治18年にここ泉大津

シンボルマーク



で日本初の毛布が誕生しました。当時の素材は牛毛で、現在のように寝具ではなく、服地を作っていました。しかし、硬さと臭いのためあまり売れなかったようです。そこで、寝具として販売を始めましたが、品質は低く、当時の庶民のあこがれの的であった舶来毛布には遠く及ばないものでした。

しかし、先人は諦めることなく、やわらかな肌触りを求めて、素材を綿に変えるなど、様々な試行錯誤を繰り返して品質向上に努められてきました。その結果、現在は国内生産のシェアが98%を占めるまでになりました。

近年は、海外の安価な毛布が輸入され、全国的に繊維業界は厳しい時代になっていますが、これまで培ってきた技術を基に高級毛布や新製品の開発を進め、泉大津ブランドの毛布を生産するなど弛まぬ努力を続けています。

また、カシミヤやアンゴラ等の高級起毛きもうコート地でも国内生産の圧倒的なシェアを占めています。

このような泉大津市の地場産業である繊維産業の歴史や文化に触れることができる「泉大津市立おりあむかん織編館」という施設では、大正時代の木製毛織機をはじめ、毛布の歴史や技術の紹介を行っており、手

泉大津市立織編館



織体験もできます。

さらに、繊維業界の新しい人材育成や新商品の企画・開発を進めるデザイナーなどを育成するために、繊維業界関係者だけでなく、市、商工会議所等も協力し、日本初の産官学共同のニット実学教室「ニットカレッジ泉大津」を平成8年に開校し、200名以上の卒業生が市内の事業所等で活躍しています。

現在は「カレッジ泉大津」として、ニット以外の繊維業界まで対象を広げ、繊維産業の更なる活性化に努めています。

まさに“毛布のまち泉大津”ですね。
市全体での取組であることが伝わってきます。
次に、泉大津市の歴史・文化について教えてくださいませんか。

大阪から和歌山を結ぶ「紀州街道」の海側に平行して南北に通る道があります。この道は、江戸時代から大津村のメインストリートであり、通称で「はまかいどう浜街道」と呼ばれています。

延宝7年（1679年）の新検地に関して描かれた地図（下条・宇多両大津村えんぼう延宝絵図）には、浜街道沿いに町屋が広がっており、また、街道に直交して9本の道筋があり、都市計画に基づく整然とした町割りになっています。

現在の地図と延宝絵図を重ねると、海岸線や家屋の数は変化していますが、300年以上経った現在と町割りがほとんど変わっていません。町割りだけでなく、当時の町屋建築も多く残されており、歴史的

街道として、泉大津市の貴重な文化資産となっています。最近では、市民レベルでこの町並みを保存し後世に伝えていこうとする意識が高まっており、家を建て替える時でも、景観を壊さないように注意されています。

また、浜街道まつりを開催しており、歴史的家屋や倉庫を借用し、地域住民の手づくりで、懐かしの生活民具の展示、子どもの昔遊びのイベントや出店等を行っています。この日は、子どもからお年寄りまでが一日中楽しく過ごすことができ、地域コミュニティの活性化はもちろん、浜街道の景観保全の啓発にも役立っています。

浜街道



次に、岸和田で有名ですが、本市にもだんじり祭りがあります。毎年、体育の日の直前の土曜・日曜に行われています。

本市では20台のだんじりが町中を駆け抜けていきますが、他市のだんじり祭りとは大きく違うところがあります。

それは、はまはっちょう濱八町（田中町、上之町、西之町、元町、

だんじり祭り（かちあい）



宮本町、下之町、出屋敷町、上市町) 地区で行われている、「かちあい」というものです。これは、止まっているだんじりの後ろから、もう1台のだんじりが走ってきて、だんじり同士ぶつけるものです。このぶつかり合う迫力は一見の価値があります。

現在は、だんじりの後ろ同士をぶつけているのですが、昭和30年頃までは、正面と正面のぶつけあいが行われており、ぶつけあうと喧嘩になり、だんじりを盾にして瓦や石の投げ合いもよくあったようです。

このほかにも市民の方が中心となった市をあげてのイベントがあると聞いたのですが。

2年前から、市民会館の隣に『咲かせよう8万人のところで8万人の夢を!』をキャッチフレーズに、市民の皆さんと協働で毎年ひまわりを植える「泉大津ひまわり大作戦」を開催しています。今年も4月30日に種まき祭を行い、現在はひまわりサポーター(個人・グループ・団体で登録された方)の皆さんが、7月9日の開花祭、8月下旬の収穫祭まで、毎日水やりや草刈りなどを行っています。

この事業は、もともと空き地で殺風景であったところに、「市民の皆さんが自分たちの住むまちに魅力を感じ、元気に人々を迎えようとする心を培ってもらいたい」と考えてスタートしたもので、今年で3回目になります。

ひまわりサポーターには、毎年約2,000名の市民が参加されています。今年もたくさんのひまわりが咲き、大勢の人に見に来て頂けることを願っています。

今後は、さらに多くの方に参加していただきたい

と併せて願っています。

それと、市域の海側にある、きららタウン泉大津で「泉大津サマーフェスタ」が毎年、7月の第3日曜日に開催されています(今年は7月16日に開催)。

“住みたい・住み続けたい泉大津”と思える人間味あふれるふれあいのある豊かなまちづくりと、青少年が健やかに成長するための“明るく人間性豊かな健康まちづくり”を目指して、市民や青年会議所等の手づくりによって毎年開催されています。

中央ステージではイベントが行われ、模擬店、パトカーや消防自動車の展示体験コーナーなど1日中多くの人々で賑っています。今年はミニSLが走るそうです。

さらに、きららタウンは海に面していることから、海上でのイベントとして、Eボート交流大会(きららカップ)も行われています。毎年、大人、子ども部門とも各20チームが出走するのですが、出場者よりも応援の皆さんが大変盛り上がっています。

この1日で市内外から約4万人の方が来場され、皆さん楽しく過ごされています。

※Eボート…10人乗りの大型カヌー。Eボートの原型はドラゴンボートであり、ゴムボートの円形状とちがいが触先のとがった船の形状。Eボートの「E」は、Exchange(交流)、Eco-life(エコライフ)、Education(教育)、Excitement(面白さ)にかけたものです。

泉大津ひまわり大作戦



泉大津サマーフェスタ (Eボート交流大会)



古くからの伝統の継承とともに、新しい取組にもチャレンジされていますね。

あと、泉大津市に意外なものがあると聞いたのですが…

意外かもしれませんが、本市には「ロシア兵墓地」があります。

これは、日露戦争当時、高石市の海岸にあった捕虜収容所で病死した89名のロシア兵の冥福を祈るため、隣接する本市の住民が自らの墓地約600㎡を提供し、彼らの墓地を造りました。

墓地の中央に、当時のロシア政府が建設した石碑があり、死亡した兵士の自国語であるロシア語、アラビア語、ドイツ語、ポーランド語、ヘブライ語で「魂よ、安らかなれ」を意味する言葉が、またその上部にはロシア語で「死せるロシアの戦士たちへ旅順港^{りょじゆんこう}の戦友より 1905年」と刻まれています。

在大阪ロシア連邦総領事、兵士の遺族が墓参されますが、距離が遠いため頻繁に訪れることができません。しかし、墓地は市民有志による清掃活動によって、いつも美しく保たれています。

ロシア兵墓地



市民の暖かい気持ちが伝わってきます。

話は変わりますが、昨年、泉大津市に新しいまちができたそうですね。

はい。平成17年4月15日、泉大津フェニックス(泉大津沖埋立処分場)に泉大津市^{ゆづなぎ}夕風町が誕生しました。

夕風町という名前は、公募で決定したのですが、

名前のおり、夕日が海に沈む時はなんとも言えない綺麗な景色です。

昨年、この夕風町の誕生を記念し、「泉大津フェニックスにぎわいづくり委員会」が、8月と9月に奥田民生さんや山崎まさよしさんなどのコンサートを開催し、延べ約6万人が集まりました。

今年も国内外からたくさんの歌手が来ます。海外からはKISSさん、国内からはDragon Ashさんなどのコンサートが、7月22、23日、8月27日と9月2日に開催され、数万人の来場者が見込まれています。また、コンサート会場では、ごみの分別をナビゲートする200名の市民ボランティアも参加します。

本市の夏は、市民の皆さんが活躍する様々なイベントがあり、活気溢れるまちとして“熱い季節”を迎えます。

最後に、泉大津市の主要施策について教えてくださいませんか。

今年度を、本市の「健康元年」と位置付け、市立病院との連携のもと、多角的・総合的に健康増進施策や介護予防施策の展開を図っていきます。

具体的には、従来の保健事業に加え、介護予防事業を含めた健康づくりの拠点として、保健センター機能を強化します。市民の健康づくりのための予防に重点を置き、住民基本健康診査や従来のがん検診等に、前立腺がん検診を加え、受診率の向上を目指すとともに、転倒骨折予防事業や筋力向上トレーニング事業等を実施します。

これからも市民が健康で活気のある泉大津市でありますことを期待しています。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。